

日本学術会議 情報学委員会 国際サイエンスデータ分科会
第26期第4回 議事要旨

日時： 令和6年7月5日（金）10:00～11:00

会場： 日本学術会議会議室5-C(1)及びオンライン（ハイブリッド開催）

資料： 資料1：開催通知・議事次第

資料2：2023-2024 CODATA 活動の概要

資料3：WDS 関連説明資料

資料4：生物多様性条約（CBD）締約国会議 COP の現状

出席者（敬称略）：村山*、芦野*、近藤、相澤、有田、大場*、中村、藤井、宮崎、井上

*は対面参加

議事：

1. 役員の選出について

まだ決定していなかった副委員長ならびに幹事（2名中1名）の選出を行った。村山委員長より、副委員長に東洋大学・芦野委員、幹事に東京大学・井上委員が推薦され、その通り了承された。

2. ISC CODATA, WDS 関連の活動について

（ア）CODATA 活動の概要説明

芦野副委員長より、CODATA の会議ならびにオンライン EC（Executive Committee）会議における議論内容に関して説明がされた。その中で、CODATA 総会（2023.10）において、理研・大武先生の提案が Task Group として採択されたこと、芦野委員が Executive Committee メンバーに再選されたことが報告された。（資料2）

（イ）WDS の概要説明

村山委員長より、WDS の概要（歴史、使命、資金、会員、行動計画等）に関して説明がされた。また、WDS Repository Sustainability Summit（2023.7.20）の基調講演で、UNESCO からオープンサイエンスに関する説明があり、オープンサイエンスが国連や学術界で議論されていることが紹介された。（資料3）

3. 研究データ、オープンサイエンス等に関する意見交換

（ア）話題提供「生物多様性条約（CBD）締約国会議 COP の現状」

有田委員より、生物多様性条約（CBD; Convention on Biological Diversity）締約国会議（COP; Conference of Parties）の現状に関する説明があった。その中で、COP15(2022.12.19)にて、従来は物に関する取引に対し利益配分をすることが決められていたが、2025年以降は生命科学のデジタルデータに関しても同様に利益配分を実施することが決定されたことが紹介された。（資料4）

Q: CBD は名古屋議定書に影響を受けているか？

A: 名古屋議定書では利益配分のやり方のプロトコルを決定（名古屋プロトコル）。

Q: CODATA ではデータの占有権・所有権は議論されているか？

A: CODATA は利益配分よりはアカデミックの立場

→産業界や国家安全保障の観点ではデータのオープンという簡単な話ではない。
データのガバナンス・マネジメント・インフラシステム等様々な階層で議論する必要がある。

→材料分野はオープンという概念はそもそも馴染まない。分野毎・扱っているデータの性質ごとでの議論も必要

→オープンデータと研究評価，出版社・競争的研究資金配分機関の関わり等に関する議論も必要